

市立豊中病院

人材育成プラン



令和7年（2025年）4月

【初版】

はじめに

令和 7 年(2025 年)4 月—このプランの策定時点、全国の病院運営を取り巻く状況は、公立・民間問わず大変厳しいものとなっています。

そのようななか、市立豊中病院は「選ばれる病院」「生き残る病院」となり、地域医療における使命を果たしていきたいと考えています。そのための取り組みは「病院運営計画」および病院組織目標に掲げるとおりですが、そこに記載していることをやり遂げられるかどうかは、病院の最大の資源である「人」にかかっています。

人は成長するものであり、自ら望む方向に変わり得るものだという考えに立って、活躍と成長の場や機会を提供できるかどうか問われている、とも言えるでしょう。

その要請に対する答えとして、本プランを策定しました。

当院で職務に励んだことが成長につながり、キャリアのなかで欠かせない日々となった、やりがいがあったと職員誰もが思える病院をめざし、本プランにもとづく人材育成を進めていくこととします。

豊中市病院事業管理者	直川 俊彦
市立豊中病院長	岩橋 博見
市立豊中病院総長	藤野 裕士

目次

1. 策定目的
2. 市立豊中病院の基本理念と基本方針
3. 人材育成プランの位置づけ
4. 病院人材育成プランの基本的な考え方
 - (ア) 市立豊中病院における人材育成の柱
 - (イ) 職種別人材育成プランの作成

1. 策定目的

当院では、令和5年度より新たな「市立豊中病院運営計画」を策定し、医療をとりまく環境が変化する中においても、公立病院として、また急性期医療を担う地域の中核病院として、求められる役割を果たすとともに、持続可能な運営に向けた診療機能の回復と経営の効率化による経常収支の黒字化をめざしています。

当院には、約1,200名の職員が在籍しており、その職種はさまざまです。各職種がそれぞれに専門性の高い業務に従事しており、医療技術の発展や社会の変化に応じて、日々成長し続けることが求められ、職員一人ひとりの努力が質の高い医療提供につながっています。そのため、上記目標を達成するためには、職員一人ひとりがその目標を共有、理解し、目標達成に向けて行動することが不可欠です。

「市立豊中病院人材育成プラン」は、「目標達成に向けた行動とは何か」を明確にするため、豊中市人材育成基本方針をふまえて、市立豊中病院の職場環境に応じた、より具体的な目標を明示する目的で策定します。職員一人ひとりに各職種の高い専門性を持った「めざすべき職員像」、「段階に応じた到達目標」、「医療技術や専門知識の習得、習熟目標」等を明示することで、各職員が当院の基本理念や病院運営計画をより具体的に意識した行動につなげていきます。

2. 市立豊中病院の基本理念と基本方針

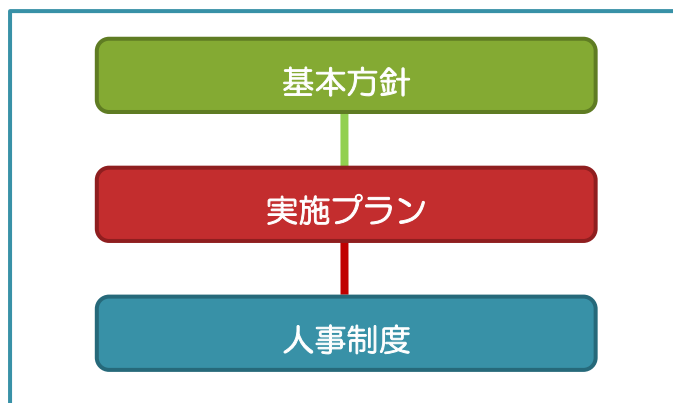
基本理念

豊中市の中核病院として『心温かな信頼される医療』を提供します。

基本方針

- ① 患者さんの立場に立った心温かな病院をめざします。
- ② 地域の中核病院として安全で質の高い医療を提供します。
- ③ 医療機関等との連携を密にし、市民の健康を守るために努力します。
- ④ 少子高齢社会に対応する医療を推進します。
- ⑤ 病院職員の教育・研修の充実を図ります。

3. 人材育成プランの位置づけ



豊中市の人材育成は、左表で示すように人材育成の考え方や施策の方向性を示す『人材育成基本方針』と、その方針に基づいて重点的に取り組む事項の内容や進め方を示す『人材育成実施プラン』、具体的な事業内容を示す『人事制度』で構成されています。今回作成する『病院人材育成プラン』は、左表で示すところの『実施プラン』の一つとして位置づけるものになります。

市立豊中病院では病院運営計画を策定しており、病院運営計画に示した基本目標と取組方針に沿って業務運営を進めています。豊中市が策定した『人材育成基本方針』と『人材育成実施プラン』を基本としつつ、病院運営計画に示した目標の実現に向けて、職員一人ひとりが「めざすべき職員像」や「到達目標」等を具体的に明示し、「市立豊中病院における人材育成とはどのようなものか」を示したものが『市立豊中病院人材育成プラン』です。

4. 病院人材育成プランの基本的な考え方

(ア)市立豊中病院における人材育成の柱

『豊中市人材育成基本方針』では、人材育成の柱として、次の項目を掲げています。

- キャリア形成の視点に立った職員の育成
- 職員の個性を大切にし、意欲と能力を育てる職場環境づくり
- 職場とともに職員を支え、意欲と能力をのばす制度の構築と運用

いずれの項目も欠かせないもので、病院として取組みを進めていますが、病院の特性である「多職種が在籍する」、「職種の専門性が高い」、「技能、技術の向上には研鑽が不可欠」という点をふまえて、病院人材育成プランにおいては、主に『キャリア形成の視点に立った職員の育成』に着目し、市立豊中病院の職場環境を反映した人材育成プランを策定しました。

市立豊中病院における人材育成について、5つの方向性を掲げ、職場と人事制度の連携により病院運営計画の取組みにつなげていきます。

① 医療の質向上を支えるキャリア形成の支援

市立豊中病院は、地域の中核病院として安全で質の高い医療の提供をめざしています。医療技術は日々進化しており、安全で質の高い医療を提供するためには、職員一人ひとりがキャリア形成（自己学習・自己啓発）を意識し、継続的な能力開発に取り

組む必要があります。院内研修の充実や外部研修への参加支援、eラーニングシステムの活用等を通じて、病院としてキャリア形成を長期的に支援し、職員がキャリア形成に自主的に取り組める環境を構築します。

② 職員の意欲と能力を育てるキャリアプラン

職員一人ひとりが意欲的にキャリア形成に取り組めるキャリアプランを構築します。病院の職域に応じたキャリアプランを職種ごとに示すことで、職員が職種ごとにめざすべき職員像や到達目標を具体的に理解します。キャリアプランに沿って、院内外での研修の充実や資格取得支援制度の活用を推進するとともに、各職種に対する明確な目標を掲げることで、より公平・公正な人事制度の運用を推進します。これにより職員満足度を向上させ、長期的な人材育成の基礎とします。

③ 高い倫理観と使命感（プロ意識）を持つ職員の育成

職員は医療に携わる者として、高い倫理観と使命感が求められます。患者視点や地域貢献を意識することで、思いやりのあるサービス提供につなげます。

病院機能評価において特に必要性が高いとされる、①医療安全、②感染制御、患者の権利、④医療倫理、⑤関連法規とその遵守、⑥個人情報の保護、⑦接遇、⑧ハラスメント、⑨虐待への対応に関する研修を徹底するため、研修計画の充実と研修実績管理の強化を推進し、高い倫理観と使命感を持った職員を育成します。

④ 多様性を認め、個を尊重し、チームプレーができる職員の育成

医療現場では、組織横断的に連携することが不可欠です。他職種と連携するだけでなく、地域の医療関係者と協働し、地域医療の発展に貢献します。委員会の活動を通じて働き方改革、タスクシフト／シェア等を推進し、各職種の多様な雇用形態の職員が働きやすい勤務体制を検討し、多種多様な職員が働きやすい環境を整備します。

研修計画においては、さまざまな職種が参加できる研修を推進し、職種間での交流を図ります。また医療啓発活動や各種学会活動への参加等を推進し、地域の患者や医療関係者と交流を深めます。

⑤ 病院経営、マネジメントを意識できる職員の育成

市立豊中病院は地方公営企業であり、経常収支黒字化に向けて、効率的な病院経営を意識し、コスト意識やスピード感を持った組織運営をめざします。

資格取得支援制度を活用した認定制度取得の推進や院内研修における管理職向け研修の充実等を図ります。また職階や経験年数別に応じた職種別人材育成プランを策定することで、段階的な職員の人材育成を醸成し、積極的なキャリア形成を促します。

(イ)職種別人材育成プランの作成

病院人材育成プランは、各職種の勤務環境や所属をふまえて、以下の職種別に作成します。プランには、職種ごとの「めざすべき職員像」を示し、階級や経験年数に合わせて、「到達目標」、「必要な研修」、「取得を推奨する資格」等を記載します。

- | | | |
|-----------|-----|-------------|
| ① 医師／歯科医師 | ・・・ | <u>P. 6</u> |
| ② 看護師／助産師 | ・・・ | <u>P. 7</u> |
| ③ 病棟補助員 | ・・・ | <u>P. 8</u> |
| ④ 薬剤師 | ・・・ | <u>P. 9</u> |

⑤	診療放射線技師	・ ・ ・	<u>P. 10</u>
⑥	臨床検査技師	・ ・ ・	<u>P. 11</u>
⑦	管理栄養士	・ ・ ・	<u>P. 12</u>
⑧	臨床工学技士	・ ・ ・	<u>P. 13</u>
⑨	理学療法士／作業療法士／言語聴覚士	・ ・ ・	<u>P. 14</u>
⑩	医療社会福祉士	・ ・ ・	<u>P. 15</u>
⑪	診療情報管理士	・ ・ ・	<u>P. 16</u>
⑫	医師事務作業補助者	・ ・ ・	<u>P. 17</u>
⑬	臨床心理士	・ ・ ・	<u>P. 18</u>
⑭	歯科衛生士	・ ・ ・	<u>P. 19</u>
⑮	視能訓練士	・ ・ ・	<u>P. 20</u>
⑯	事務職員／技術職員／医療事務専門職員	・ ・ ・	<u>P. 21</u>

めざすべき職員像

市立病院の医師として、住民の健康を守り、豊かな地域づくりに貢献できて心温かな信頼される医療を提供する職員

地域医療における公立病院の役割を理解し、質の高い急性期医療の提供と安全・安心な地域医療を実現できる職員

患者中心の医療の実現のため、多職種と連携し、リーダーシップを発揮して、信頼とおもいやりのあるチーム医療と良好なコミュニケーションを築ける職員

良質な医療の向上を目指し、最新の根拠に基づく知識や技術の習得に努め、自らの自立的な向上と質の高い医療人の育成・医学教育に積極的に参加する職員

常に病院経営・効果的運営という視点から業務改善に取り組むとともに、自らの働き方の改善やワークライフバランスの推進に取り組める職員

人材育成計画

階層	到達目標	内部研修	外部研修	専門・認定等の資格取得など
病院長／総長 (部長級)	豊中市長・病院事業管理者の意志を理解し、病院の理念・目標を職員全体に示し、浸透させていくことができる。 市立病院として地域医療の中心を担い、病院の方向性を示すことができる。 病院経営・運営の責任者として、長期成長計画の策定、経営戦略の立案、実行、評価ができる。	・医療安全管理研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・医療情報研修 ・臨床倫理研修 ・BLS研修	・学会発表、参加(全国規模および地域医療関連)。 ・認定資格更新に必要な専門講習 ・病院経営管理者研修 ・医療安全管理者養成講習 ・ICLS、ACLS等 ・厚労省の医師の働き方改革に係る「トップマネジメント研修」	
副院長 医務局長 中央診療局長 (部長級)	病院の使命や病院の理念・目標が診療全体に浸透するよう、病院長を補佐する事ができる。 病院経営・運営の中心的な役割を担い、経営戦略の進捗を管理する事ができる。 医務局・中央診療局を統括・管理し、それらに属する医師およびコ・メディカル職種の人材育成に責任を持つことができる。 医療安全、地域連携、感染対策等を統括し、責任者としてリーダーシップを発揮できる。	・医療安全管理研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・医療情報研修 ・臨床倫理研修 ・BLS研修	・学会発表、参加(全国規模および地域医療関連)。 ・認定資格更新に必要な専門講習 ・医療安全管理者養成講習 ・ICLS、ACLS等	
診療科部長(部長級)	病院の使命や病院の理念・目標が診療全体に浸透するよう、指導力を発揮できる。 病院経営・運営の実践的な役割を担い、各診療科・各部門における経営戦略の進捗を管理する事ができる。 自分の担当する医療安全や地域連携等の各部門、各診療科の責任者としてマネジメント能力を発揮し、課題を周知し意見をまとめることができる。 他部門・他診療科と連携し、チーム医療を築くことができる。 各診療科・各部門の人材育成に責任を持つことができる。	・医療安全管理研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・医療情報研修 ・臨床倫理研修 ・BLS研修	・学会発表、参加(全国規模および地域医療関連)。 ・認定資格取得および更新に必要な専門講習。 ICLS、ACLS等	
医長	自身の専門領域での知識・技術を確立し、医療の提供に活かすことができ、優れた専門性を活かし、チーム医療の中心を担い貢献することができる。 医療の質の向上に資する事ができ、部長を補佐し、病院経営・運営を理解・実行できる。関係職種、医員以下(研修医・専攻医を含む)に対して、必要な指導ができる。	医療安全管理研修、感染対策・抗菌薬適正使用講習会、医療情報研修、臨床倫理研修、BLS研修	学会発表、参加(全国規模および地域医療関連)。 認定資格取得および更新に必要な専門講習。 ICLS、ACLS等	
医員	自身の専門領域での知識・技術を確立し、医療の提供に活かすことができ、優れた専門性を活かし、チーム医療に貢献することができる。 医療の質の向上に資する事ができ、病院経営・運営を理解・実行できる。 関係職種、研修医・専攻医の指導ができる。	・医療安全管理研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・医療情報研修 ・臨床倫理研修 ・BLS研修	・学会発表、参加(全国規模および地域医療関連)。 ・医療安全管理者養成講習 ・ICLS、ACLS等	
専攻医	専門領域での診療能力を確立し、患者の診断と治療を高度に実施できる。他科や多職種と連携し、包括的な医療を提供できる。 臨床研究や症例報告を行い、診療技術や知識をチームに還元できる。初期研修医や医学生への適切な指導を行うことができる。	・ケーススタディによる専門診療技術の向上 ・臨床指導スキル研修(医学生や研修医への教育法) ・BLS研修	・学会発表、参加(全国規模および地域医療関連)。 ・認定資格に必要な専門講習(例:日本専門医機構主催研修)。ICLS、ACLS等	・各専門医資格の取得(日本専門医機構認定領域) ・サバスペシャリティ資格の準備(診療分野に応じた領域専門医)
研修医	救急医療およびプライマリケアに必要な基本技術を習得する。チーム医療における役割とリスクマネジメントを理解し、実践することができる。 インフォームドコンセントの理念を深く理解し、患者中心の診療を遂行できる。医師法や保険診療の基礎的理解を持ち、適切に行動することができる。	・基礎的技術研修(採血、心電図読影、救急対応、勉強会など)。 ・チーム医療の実践(多職種間カンファレンス、シミュレーション教育)。 ・BLS研修	・学会発表、参加(全国規模および地域医療関連)。 ・認定資格に必要な専門講習(例:日本専門医機構主催研修)。ICLS、ACLS等	・BLS(Basic Life Support) ・ACLS(Advanced Cardiovascular Life Support)の修得を推奨 ・JMEC(内科救急)やICLS講習への参加

めざすべき職員像

患者の立場に立った誠実で質の高い看護が提供できる職員

地域連携を推進し、地域住民のニーズに応じた連続性のある看護が提供できる職員

多職種と協働し円滑なチーム医療を推進できる職員

専門職業人として自己啓発を行い自律した看護職をめざす職員

人材育成計画

階層		到達目標	内部研修	外部研修	専門・認定等の資格取得など
看護部長(部長級)	マネジメント ラダーⅣ	看護部長は、看護部の責任者として病院の管理・運営に参画するもので、次の事項を総括する ・病院全体の管理・運営に参画するとともに地域まで視野を広げた看護管理を実践できる		・大阪看護協会短期研修・学会 ・日本看護協会短期研修・学会 ・関西臨床倫理研究会	
看護部次長(次長級)	マネジメント ラダーⅢ	看護部次長は、看護部長の命を受け、看護部長を補佐し、看護師等の確保並びに職員の監督を行う ・トップマネジメントを担う一員として看護管理を実践できる	・新任課長課長級研修(豊中市職員研修)	・認定看護管理者教育課程 サードレベル ・大阪看護協会短期研修・学会 ・日本看護協会短期研修・学会 ・関西臨床倫理研究会	・認定看護管理者
副看護部長／主幹 (課長級)		副看護部長は、看護部長の命を受け、看護部の管理者として、総務、業務、教育、外来等を担当し、業務の円滑化を図るとともに、職員の指導・監督をする 主幹は、看護部長の命を受け、副看護部長の職務を補佐する ・トップマネジメントを担う一員として看護管理を実践できる			
看護師長／副主幹 (補佐級)	マネジメント ラダーⅡ	看護師長は、看護部および副看護部長の命を受け、当該看護単位における管理責任者として看護チームを編成し、患者を取り巻く医療チーム間の調整を図り、部下職員のキャリア等を考慮し、適正な業務分担を行い指導・監督する 副主幹は、副看護部長の命を受け、看護師長の職務を補佐する ・自部署の看護管理を実践できる	・看護師長昇格者研修 ・看護管理者の看護倫理 ・新任課長課長級研修(豊中市職員研修)	・認定看護管理者教育課程 サードレベル ・医療安全管理者養成研修 ・大阪看護協会短期研修・学会 ・日本看護協会短期研修・学会 ・関西臨床倫理研究会	・医療安全管理者
副看護師長(係長級)	マネジメント ラダーⅠ	副看護師長は、看護師長の命を受け、その業務を補佐し、看護師長が不在の場合はその業務を処理する ・自部署の看護管理者とともに看護管理を実践できる	・副看護師長昇格者研修 ・現状分析・問題解決思考 ・看護管理者の看護倫理	・認定看護管理者教育課程 ファーストレベル ・認知症ケア研修 ・看護補助者協働推進研修 ・大阪看護協会短期研修・学会 ・日本看護協会短期研修・学会 ・関西臨床倫理研究会	
主査(係長級)	クリニカル ラダー ・ キャリア ラダー Ⅳ	より複雑な状況において創造的な実践を行い、組織や分野を超えて参画する 【臨床実践能力】 ・より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択し、QOLを高めるための看護を実践する 【専門的・倫理的・法的な実践能力】 ・より複雑な状況において倫理的・法的判断に基づき行動し、倫理的かつ法律を遵守した実践のための体制整備に組織や分野を超えて参画する 【リーダーシップとマネジメント能力】 ・安全で効率的な実践を常に提供できるよう、組織や職種を超えた調整や教育に主体的に参画する 【専門性の開発能力】 ・未来志向し、看護の専門職として、組織や看護、医療を超えて社会の変革・創造や人材の能力開発に貢献する	・主査昇格者研修 ・リーダーシップB ・リーダーシップBフォローアップ ・継続看護 ・看護倫理 ・災害看護 ・新任係長等級研修(豊中市職員研修)	・特定行為研修 ・大阪府保健師助産師実習指導者講習会 ・大阪看護協会短期研修・学会 ・日本看護協会短期研修・学会 ・関西臨床倫理研究会	・専門看護師 認定看護師 ・各種学会認定資格
	クリニカル ラダー ・ キャリア ラダー Ⅲ	幅広い視野で予測的に判断し実践を行うロールモデルとなる 【臨床実践能力】 ・個別の状況に応じた判断と実践を行う 【専門的・倫理的・法的な実践能力】 ・倫理的・法的判断に基づき認識した課題や潜在的リスクの解決に向け行動しロールモデルを示す 【リーダーシップとマネジメント能力】 ・組織における安全かつ効率的・安定的な実践のための体制整備に主体的に参画し、同僚を支援する 【専門性の開発能力】 ・幅広い視野と予測に基づき自身と組織の質を更に向上するとともに看護の専門職組織の活動に関わる			
主事	クリニカル ラダー ・ キャリア ラダー Ⅱ	・基礎的技術研修(採血、心電図読影、救急対応、勉強会など)。 ・チーム医療の実践(多職種間カンファレンス、シミュレーション教育) ・BLS研修	・学会発表、参加(全国規模および地域医療関連)。 ・認定資格に必要な専門講習(例:日本専門医機構主催研修)。ICLS、ACLS等	・大阪看護協会短期研修・学会 ・日本看護協会短期研修・学会 ・関西臨床倫理研究会	
一般職員	クリニカル ラダー ・ キャリア ラダー Ⅰ	標準的な実践を自立して行う 【臨床実践能力】 ・標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する 【専門的・倫理的・法的な実践能力】 ・倫理的・法的規範に基づき実践する 【リーダーシップとマネジメント能力】 ・業務手順や組織における標準的な計画に基づき自立して実践する 【専門性の開発能力】 ・専門職としての自身の質の向上を図る	・フィジカルアセスメント② ・臨床推論 ・メンバースhip ・プリセプターシップ ・プリセプターシップフォローアップ ・達人への道① ② ・達人への道シャドー ・事例から考える看護0～④	・大阪看護協会短期研修・学会 ・日本看護協会短期研修・学会 ・関西臨床倫理研究会	
	クリニカル ラダー ・ キャリア ラダー 新人	必要に応じ助言を得て実践する 【臨床実践能力】 ・基本的な看護手順に従い助言を得て看護を実践する 【専門的・倫理的・法的な実践能力】 ・倫理的・法的規範に基づき実践する 【リーダーシップとマネジメント能力】 ・基本的な業務手順に従い、必要に応じ助言を得て実践する 【専門性の開発能力】 ・専門職としての自身の質の向上を図る	・新人オリエンテーション ・社会人基礎力 ・メンタルヘルス ・救急蘇生 救急蘇生フォローアップ ・看護記録①② ・医療安全 ・コミュニケーションスキル ・考えて行動する基礎看護 ・倫理の基礎 ・療養評価 ・フィジカルアセスメント① ・専門職としての看護師の役割 ・ローテーション研修 ・1ヶ月 半年 1年振り返り		

看護補助員

めざすべき職員像

看護チームの一員として、患者の立場に立った誠実な対応ができる職員

看護師の指示のもとで安全に看護補助業務を行い、チームの目標達成に向けて協働できる職員

人材育成計画

階層		到達目標	内部研修	外部研修	専門・認定等の資格取得など
3年目以上	メイトラダーⅢ	看護補助者の中心的なメンバーとして看護チームに参画し、看護補助者の同僚や後輩に助言や支援を行う	・高齢者の特徴と関わり方/せん妄について ・口腔ケア ・移送・移乗 ・医療安全・労働安全 ・倫理・接遇 ・感染対策 ・体位交換・寝衣交換(演習) ・急変時対応(講義) ・急変時対応(演習) ・災害	ナースिंगスキル(動画教材) 主な内容 ・看護補助者対象講義 医療制度の概要 ・病院組織とチーム医療 ・チーム医療における看護師／看護補助者の役割 ・看護補助者の業務 ・看護補助者の業務上の責任 ・看護補助者に求められる倫理 ・看護補助者業務における医療安全 ・看護補助者業務における感染対策 ・看護補助者業務における労働安全衛生 ・看護補助者のやりがい	
2年目	メイトラダーⅡ	看護チームの一員としての役割と責任を果たし、安全に業務を行う			
1年目	メイトラダーⅠ	看護チームの一員としての役割と責任を理解し、指導を受けながら安全に業務を行う			

薬剤師

めざすべき職員像

安心かつ最良の薬物治療を通じて、心温かな信頼される医療を提供できる職員

医薬品の適正使用を推進し、安全で質の高い医療を提供できる職員

地域の薬剤師と連携し、地域医療に貢献できる職員

薬剤師の専門性を活かし、多職種と協力してチーム医療に貢献できる職員

学会や研修会等に積極的に参加して自己研鑽することで、薬剤師としての資質向上に努める職員

人材育成計画

階層	到達目標	内部研修	外部研修	専門・認定等の資格取得など
部長(部長級)	・病院および豊中市の方向性を理解し、病院運営における方策の立案・実施に参画する ・組織の方向性を示し、部内全体にわたり、業務を統括する ・個人の特性に合わせて部員のキャリアアップを支援する ・部内の規律を高め、秩序を守る意識の醸成と社会的責任を果たす組織作りを行う ・豊中市内の病院や大阪府下市立病院、全国都市立病院等の薬剤部長と情報交換および情報共有し、業務の進行管理を適切に行う			
次長(次長級)	・部長を補佐し、部長が示す方針や戦略を各室で実行可能な形に変換し、部員に適切に伝えるなど部内の調整を行う ・保健所や薬剤師会、大学など外部機関との協議に参加し、地域医療に貢献する ・組織の方針や医療上の必要性について他部署と協議し、薬剤部として実践できる方策を指示する ・部員の知識、適正、健康状態、家庭環境などに応じて、適切な業務配置を提案する ・病院経営、人事、運営に関する研修会に参加する			
副部長(課長級)	・保健所や薬剤師会、大学など外部機関との協議に参加し、地域医療に貢献する ・組織の方針や医療上の必要性について他部署と協議し、薬剤部として実践できる方策を指示する ・部員の知識、適正、健康状態、家庭環境などに応じて、適切な業務配置を提案する ・病院経営、人事、運営に関する研修会に参加する	・課長級研修(豊中市職員研修)		
主任(補佐級)	・病院や薬剤部の方針を理解して、グループ全体として業務を円滑に行うための業務の指示や提案を行う ・院内常任委員会に参加し、薬剤部の立場を考えた役割を発揮する ・他部署と連携を図り、業務を効率化するための方策を実践する ・専門領域の指導的な役割を果たす認定資格を取得する	・課長補佐級研修(豊中市職員研修)	・病院中堅職員育成研修	・専門領域の専門・指導・上級薬剤師
主任(係長級)	・部員に対して適切な教育を行うための手引きの作成や教育のサポートを行う ・病院や薬剤部の方針を理解して、日常業務を円滑に行うための自室の業務配分や室間の人員調整を行う ・院内常任委員会に参加し、薬剤部の立場を考えた役割を発揮する ・他部署と連携を図り、業務を効率化するための方策を実践する ・専門領域の認定資格を取得する		・医薬品安全管理責任者等講習会	
主査(係長級)	・後輩職員に対して適切な教育を行う ・主任不在時は代理の役割を果たす ・院内委員会下部組織や院外の各主委員会に参加し、薬剤師としての役割を果たす ・部員の意見を集約し、業務を円滑化するための提案を行う ・専門領域の認定資格を取得する	・係長級研修(豊中市職員研修)		・専門領域の認定薬剤師
主事	・新規職員や薬学部実習生に対して適切な教育を行う ・病院や薬剤部の方針を理解して、日々の自室の状況を把握する ・チーム医療への参加やチームメンバーと情報共有を行い知識の向上を図る ・学会の参加や認定資格の取得に向けた研鑽を行う	・係長級昇格前研修(豊中市職員研修)		・薬学全般の認定薬剤師 ・認定実務実習指導薬剤師
一般職員	・社会人として報告、連絡、相談を確実に行う ・病院全体の業務の流れを理解し、薬剤部における業務の基礎を習得する ・院内外の各種研修会に参加して知識の向上を図る	・新規採用職員研修(豊中市職員研修)		

階層にかかわらず受講する研修

・医薬品安全管理研修会 ・医療安全管理研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会
 ・日本病院薬剤師会 ・医療関連学会 ・情報セキュリティ研修 ・ハラスメント防止研修 ・人権研修

めざすべき職員像

専門的な知識と技術の研鑽に努め、安全で質の高い医療を提供できる職員

問題解決能力を有し調査研究に努める職員

患者さんの立場に立った優しさと思いやりの心が持てる職員

医療チームの一員として、技術に加えて品性を兼ねそなえた職員

放射線機器の安全管理と放射線防護の最適化に努める職員

人材育成計画

階層	到達目標	内部研修	外部研修	専門・認定等の資格取得など
部長(課長級)	1 組織の方向性を示し、円滑な業務運営ができるよう調整することができる 2 計画的な人材育成を行うとともに、部下のキャリアアップを積極的に支援することができる 3 科内の労働安全衛生上の諸問題に気づき、労働環境の整備を図ることができる 4 診療報酬や部門統計などを考慮し、業務改善の計画立案、実施、評価を行うことができる	- 放射線傷害の防止に関する教育訓練 - 放射線診療に従事する者に対する診療用放射線の安全利用のための研修 - 造影剤使用時の急変対応に関する研修 - 医療安全管理研修 - 情報セキュリティ研修 - 接遇研修会 - 人権研修 - 階層別基本研修(豊中市職員研修)	- 各種学会開催の研修会 - 学会への参加	- X線CT認定技師 - X線CT専門技師 - 血管撮影(インターベンション)専門診療放射線技師 - 救急撮影認定技師 - 医学物理士 - 核医学専門技師 - 放射線治療専門放射線技師 - 医用画像情報専門技師 - 肺がんCT検診認定技師 - 検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師 - MRI専門技術者 - 医療情報技師 - 血管診療技師
副部長(補佐級)	1 放射線科内の業務調整や院内全体の調整することができる 2 チーム医療に専門性を活かすことができる 3 画像診断に参加し、医師の読影を補助することができる 4 各種トラブルに対し、迅速で的確な対応ができる			
主任(係長級)	1 監督者として部門全般にわたり装置の保守や業務運用を適正、かつ円滑に管理できる 2 部門における個人スキルを把握して適正に人員配置ができる 3 障害防止法の施設基準を遵守して放射線管理が実践できる 4 実習生等に対する臨床指導ができる			
主査(係長級)	1 高度な専門知識を習得して、先駆的な撮影検査が実践できる 2 学会や研究会への研究学術発表に取り組むことができる 3 公益法人等が認定する各種の認定資格取得に励む 4 新規職員に対して適正な教育指導が行える			
主事				
一般職員	1 豊中市職員としての自覚を持ち、社会人・医療人としての行動がとれる 2 患者さんや職員とのコミュニケーションを円滑にとることができる 3 情報システムや運用手順を幅広く理解し、臨床所見に精通した撮影技術を提供できる 4 院内外の各種研修に積極的に参加してスキル向上を図る	- 放射線傷害の防止に関する教育訓練 - 放射線診療に従事する者に対する診療用放射線の安全利用のための研修 - 造影剤使用時の急変対応に関する研修 - 医療安全管理研修 - 情報セキュリティ研修 - 接遇研修会 - 人権研修 - 階層別基本研修(豊中市職員研修) - 新規採用職員研修(豊中市職員研修) - MRIの安全利用に関する講習		

臨床検査技師

めざすべき職員像

質の高い専門分野の知識・技術を習得するために常に自己研鑽に励み、資質の向上を継続できる職員

専門領域における認定資格取得や学会発表など専門性を高めるとともに、後継者育成に努める職員

良好なコミュニケーションを図り、医療従事者相互の調和に保つことができる職員

高品質な臨床検査を提供するため、業務改善などを提案し、実践できる職員

他医療機関と有益あるいは多面的な情報交換ができる職員

医療人として専門分野の他にも広く教養を身につけ豊かな人間性を有する職員

人材育成計画

階層	到達目標	内部研修	外部研修	専門・認定等の資格取得など
部長(課長級)	1 組織の方向性を示し、円滑な業務運営ができるよう調整する 2 計画的な人材育成と、部下のキャリアアップを支援できる 3 部内の労働環境の整備を図ることができる 4 院内各部署との調整を図ることができる 5 経営的な視点に立ち、経営改善の戦略が立てられる 6 情報収集に努めることができる	・新任課長級研修(豊中市職員研修)		
副部長(補佐級)	1 組織の方向性を示し、円滑な業務運営ができるよう調整する 2 計画的な人材育成と、部下のキャリアアップを支援できる 3 部内の労働環境の整備を図ることができる 4 担当業務において適切なアドバイスができる 5 副部長・副主幹は、部長の補佐・代行を務めることができる 6 経営的な視点に立ち、経営改善の戦略が立てられる 7 情報収集に努めることができる	・新任課長補佐級研修(豊中市職員研修)		・精度管理責任者 ・医療安全管理者 ・臨地実習指導者講習会
主任(係長級)	1 部門間の調整を果たすことができる 2 部門の方向性を示し、部門の運営を調整する 3 部門の労働環境の整備を図ることができる 4 担当業務において適切なアドバイスができる 5 学会発表を積極的に行うとともに部下の発表の指導ができる 6 的確で有効なインシデント対策が提案できる 7 部下の育成状況を把握し、適切な業務配分が行える 8 情報収集に努めることができる		・日本臨床衛生検査技師会研修 ・日臨技近畿支部研修	・認定輸血認定検査技師 ・認定臨床微生物検査技師 ・認定血液検査技師 ・認定骨髄検査技師 ・超音波検査士 ・血管診療技師 ・細胞検査士 ・日本糖尿病療法指導士 ・栄養サポートチーム専門療法士 ・臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師
主査(係長級)	1 部門責任者を補佐し、部門の運営に関わることができる 2 学会発表を積極的に行うとともに部下の発表の指導ができる 3 各種認定資格の取得または更新する 4 担当の業務を迅速に行い、後輩の指導ができる 5 自己研鑽に励み、コミュニケーション能力を身につける 6 チーム医療へ積極的に参加する	・新任係長級研修(豊中市職員研修)	・大阪府臨床検査技師会研修 ・各種学会主催研修	・認定一般検査技師 ・認定病理検査技師 ・認定救急検査技師 ・認定心電検査技師 ・JHRS認定心電図専門士 ・心電図検定(1級)
主事	1 担当業務を理解し、遂行できる 2 指導を受けながら学会発表ができる 3 各種資格の取得または資格取得に向け準備する 4 新人の指導ができる 5 自己啓発に努め、広い教養を身につける 6 チーム医療へ積極的に参加する	・係長級昇格前研修(豊中市職員研修)		・心電図検定(2級) ・二級臨床検査士
一般職員	1 担当業務を理解し、遂行できる 2 指導を受けながら学会発表ができる 3 各種資格の取得または資格取得に向け準備する 4 新人の指導ができる 5 自己啓発に努め、広い教養を身につける 6 チーム医療へ積極的に参加する	・2～5年目職員研修(豊中市職員研修)		・心電図検定(3級) ・緊急臨床検査士
新規採用職員	1 豊中市職員としての自覚を持ち、病院の理念を理解し、社会人・医療人としての行動がとれる 2 病院全体の業務の流れが理解できる 3 業務に必要な基本的技術と知識を習得する 4 医療安全・感染対策・接遇を理解する	・新規採用職員研修(豊中市職員研修) ・臨床検査部研修(新人)		

階層にかかわらず 受講する研修	(院内研修) ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・医療安全管理研修 ・災害・救急蘇生 ・情報セキュリティ研修 ・接遇
階層にかかわらず 取得する資格	・検体採取等に関する厚生労働省指定講習会 ・タスク・シフト/シエアに関する厚生労働大臣指定講習会

管理栄養士

めざすべき職員像

専門分野についての知識・技術を得得するため、研修会や学会に積極的に参加するなど自己研鑽に励み、栄養士としての資質向上に努める職員

良好なコミュニケーションを図り、部内はもちろん他部署や多職種との連携を円滑に取ることができる職員

認定資格取得など専門性を高めると共に、質の高いチーム医療に貢献できる職員

病院の経営改善や運営方針を理解した上で、部の目標達成や業務効率化のため業務改善や提案など積極的に取り組める職員

患者のプライバシーや権利を遵守し、安心・安全な医療を提供できる職員

人材育成計画

階層	到達目標	内部研修	外部研修	専門・認定等の資格取得など
部長(課長級)	病院全体及び部署を取り巻く状況を客観的に把握し、部署が置かれた状況から、臨機応変に業務対応できる。 個々の適正や能力を勘案した上でよりよい業務配分を考え、それぞれに適切な助言、指導、動機づけなどを行うことができる。 勤務年数目安:新人なら22年～	・新任課長級研修(豊中市職員研修) ・院内研修のうち、所属長必須研修、職員推奨研修は受講必須	・大阪府公立病院栄養士代表者会や豊病協栄養士部会の研修会等 ・資格維持のための学会や各種研修 ・栄養部門マネジメントに役立つような研修	取得資格の維持
副部長(補佐級)	自身の業務だけでなく、常に部全体の業務進捗状況を把握するよう努めている。 日常はあまり生じないトラブルについても、マニュアルや関連知識を応用し的確に対応できる。 新たな専門知識や関連業務に関する知識習得のため、各種研修等に参加し、部内職員にも啓発している。	・新任課長補佐研修(豊中市職員研修) ・院内研修のうち職員推奨研修は受講必須	・大阪府公立病院栄養士代表者会や豊病協栄養士部会の研修会等(要事参加) 推奨研修等:①資格維持のための学会や各種研修 ②臨床関連の研修だけでなく、給食管理含め栄養部門マネジメントに役立つような研修 ③病態栄養学会 JSPEN等の学会主催研修(知識のアップデートにつながるもの)	病態栄養専門管理栄養士やNST専門療法士の上位資格(特にがん病態栄養専門管理栄養士)が望ましい。
主任(補佐級)	給食管理業務含め部全体の業務を理解し、状況に応じ必要な情報を収集し業務遂行できる。 部内の意見調整を調整し所属長に提言するなど、問題解決に積極的に取り組む。 勤務年数目安:新人なら17年～	・新任課長補佐級研修(豊中市職員研修) ・院内研修のうち職員推奨研修は受講必須	・大阪府公立病院栄養士代表者会や豊病協栄養士部会の研修会等(要事参加) 推奨研修等:①資格維持のための学会や各種研修 ②病態栄養学会、JSPEN等の学会主催研修(新たな資格取得につながるもの) ③臨床関連の研修だけでなく、給食管理含め栄養部門マネジメントに役立つような研修	病態栄養専門管理栄養士やNST専門療法士の上位資格(特にがん病態栄養専門管理栄養士)が望ましい。
主任(係長級)	日常業務だけでなく、やや困難な事例にもある程度対応できる。関連する様々な知識に対しても積極的に習得しようとする姿勢が見られ、専門資格やより上位資格取得にも積極的。 栄養管理や部内の運用などについて、後輩へ適切な指導ができ、積極的にアドバイスできる。	・豊中市職員研修(新任係長級研修)は2～5年目職員研修) ・院内のうち研修下記にあげるものは受講必須	推奨研修等:①資格維持のための学会や各種研修 ②病態栄養学会、JSPEN等の学会主催研修(新たな資格取得につながるもの) ③臨床関連の研修だけでなく、給食管理に関する研修等	NST専門療法士+下記のいずれか ・病態栄養専門管理栄養士 ・日本栄養治療学会(JSPEN)の各種専門士 ・糖尿病、腎臓病、心疾患、摂食嚥下等の各種学会認定資格(糖尿病療養指導士、摂食嚥下リハビリテーション認定士、腎臓病療養指導士 等)
主査(係長級)	業務量や優先順を把握した上で、よりよい方法を模索、時間管理やコスト意識を持ち、効率よく業務を遂行できる。患者やスタッフの相談や苦情、要望などを正しく理解し、感情的になっている場合でも冷静に対処できる。 勤務年数目安:新人なら11～16年	・新任係長級研修(豊中市職員研修) ・院内のうち研修下記にあげるものは受講必須	推奨研修等:①NST専門療法士資格維持のための各種研修 ②病態栄養学会、JSPENや両学会主催の研修会(特に学会認定資格取得や資格維持のための単位につながるもの)	・NST専門療法士(失行の場合は再取得予定も可)
主事	日常業務は、業務の優先順位を意識し正確に業務遂行できる。 職場全体の様子も概ね把握できており、部内スタッフと積極的にコミュニケーションを図ろうと努めている。 勤務年数目安:新人なら6～10年	・推奨研修:主査昇格に必要な各種研修 ・院内のうち研修下記にあげるものは受講必須	NST実地修練(当院以外)・・・NST専任資格を有さない場合のみ 推奨研修等:①NST専門療法士取得に向けた各種研修 ②病態栄養学会、日本栄養治療学会や両学会主催の研修会(特に学会認定資格取得や資格維持のための単位につながるもの)	・NST専任資格
一般職員	栄養管理計画書作成、栄養指導等の日常業務は問題なく遂行できる。 職場のルールや職場の一員としての自覚を持ち、部内スタッフとの関係性も概ね良好。 業務に必要な知識習得や新たな業務へも積極的に取り組める。 勤務年数目安:新人なら1～5年	新人職員対象の各種研修	・学会発表、参加(全国規模および地域医療関連)。 ・認定資格に必要な専門講習(例:日本専門医機構主催研修)。ICLS、ACLS等	

階層にかかわらず受講する研修

(院内研修)
・感染対策・抗菌薬適正使用講習会
・医療安全管理研修
・情報セキュリティ研修

めざすべき職員像

生命維持管理装置をはじめとする医療機器の操作、保守点検、管理を担うために高い技術と知識を持つ職員

他職種と円滑で効率的な業務を行う為に高いコミュニケーション能力を持つ職員

高い医療倫理感を持ち安全、安心な医療を提供できる職員

専門職として責務を果たすために高い技術、知識を向上するために学会、研修会等に積極的に参加できる職員

コスト意識を高く持ち医療安全面に考慮しつつ業務を遂行できる職員

人材育成計画

階層	到達目標	内部研修	外部研修	専門・認定等の資格取得など
部長(課長級)	・組織的に関連部門との連携・調整・協働ができる ・部門目標を立案し、目標達成に向けて、計画、立案、実行、評価を行うことができる ・計画的な人材育成を行うとともに、部下のキャリアアップを積極的に支援できる ・院内外の関係部門との連携、調整ができる ・経営的な視点に立ち、経営改善の戦略が立てられる	・課長級研修(豊中市職員研修) ・医療安全管理研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・救急蘇生 ・災害対策 ・医療情報研修 ・情報セキュリティ研修	臨床工学技士会・各種学会 開催の研修会及び学会参加・発表 臨床工学などに関連するセミナー	臨床工学技士に関連する認定、専門士もしくは業務運営に関わる講習の受講、認定・資格の取得
副部長(補佐級)	・部長不在時に部長の補償ができる ・関連部署と協議し院内全体に関わる医療機器予算提案ができる ・部下のキャリアアップに対して指導できる	・課長補佐研修(豊中市職員研修) ・医療安全管理研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・救急蘇生 ・災害対策 ・医療情報研修 ・情報セキュリティ研修		
主任(補佐級)	・部内の業務調整を行うなど管理者の補佐ができる ・関連部署と協議し効率的な機器運用提案ができる ・関連部署と協議し業務改善の提案を行う事ができる ・安全面、効率性、コスト面を考慮し部内予算提案ができる	・課長補佐研修(豊中市職員研修) ・医療安全管理研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・救急蘇生 ・災害対策 ・医療情報研修 ・情報セキュリティ研修		
主任(係長級)	・専門認定士の資格を有する者と同以上の技術、知識を業務に活用できる ・指導者として後輩の育成状況を把握し適切に指導ができる ・部内の問題を把握し業務改善の提案を行う事ができる	・係長級研修(豊中市職員研修) ・医療安全管理研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・救急蘇生 ・災害対策 ・医療情報研修 ・情報セキュリティ研修		・透析技術認定士 ・3 学合同呼吸療法認定士 ・臨床ME専門認定士 ・認定血液浄化関連臨床工学技士 ・認定集中治療関連臨床工学技士 ・認定医療機器管理関連臨床工学技士 ・心血管インターベンション技士 ・実習指導者講習修了
主査(係長級)	・各種認定士の資格を有する者と同以上の技術、知識を業務に活用できる ・新人や新規採用者に対して適切な指導ができる ・学会や研修会に自発的に参加、発表を行い業務に反映する事ができる	・係長級研修(豊中市職員研修) ・医療安全管理研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・救急蘇生 ・災害対策 ・医療情報研修 ・情報セキュリティ研修		
主事	・臨床工学技士として理解を深め業務を正確かつ確実に遂行できる ・チームの一員として他職種と連携して効果的に業務を遂行できる ・医療安全、感染対策に留意した行動がとれる ・自己学習の発見や問題解決に取り組み部門目標に沿った個人目標を立てることができる	- 豊中市職員研修(主事研修) - 院内研修 ・医療安全管理研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・救急蘇生 ・災害対策 ・医療情報研修 ・情報セキュリティ研修		
一般職員	・豊中市職員として自覚を持ち理念を理解し、医療人・社会人としての行動がとれる ・指導や管理の下に必要な知識、着実の習得ができる ・習得した知識、技術を使用し安全、確実に業務を遂行できる ・指導を受けながら学習課題、自己目標を立てることができる ・対人コミュニケーションがとれる	- 豊中市職員研修 - 院内研修 ・医療安全管理研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・救急蘇生 ・災害対策 ・医療情報研修 ・情報セキュリティ研修		

めざすべき職員像
患者の立場に立ち、真摯に向きあい、人権を尊重し、誠実な対応ができる職員
常に周囲に気を配り、安全・安心に配慮し、安全で質の高い医療を目指すことができる職員
チームとして協調し、効率的な組織運営に対応できる職員
地域の中核病院として向上心を持ち、積極的に行動できる職員

人材育成計画				
階層	到達目標	内部研修	外部研修	専門・認定等の資格取得など
部長(課長級)	1. 病院目標、科内目標達成に向け、所属を超えた組織の活動を円滑に推進できる 2. リハビリ実践において状況に応じた総合的な判断ができる 3. 管理者としての視点で院内外の関係部門の連携・調整ができる 4. 計画的な人材育成・部下のキャリアアップを支援できる 5. 経営的な視点に立ち、経営改善の戦略が立てられる	・課長級研修(豊中市職員研修)	・マネジメント研修 ・医療安全管理研修 ・各学会及び研修会への参加と発表	・医療安全管理者
副部長(補佐級)	1. 自らの部署を統率して成果を出す 2. メンタルヘルスとセクシャルハラスメントを理解し、部署の良い人間関係を構築するよう努力できる 3. 診療報酬について理解できる 4. 医療姿勢・調査について理解し対応できる 5. 後輩の育成状況を把握し、適切な業務配分ができる	・課長補佐級研修(豊中市職員研修)	・マネジメント研修 ・医療安全管理研修 ・各学会及び研修会への参加と発表	
主任(係長級)	1. 自己目標を科内目標と連動して立案し、部門の目標達成に向けて取り組むことができる 2. 専門性を高め、リターとしての役目を理解し、業務を円滑に遂行できる 3. 後輩の育成をする	・係長級研修(豊中市職員研修)	・各学会及び研修会への参加と発表	
主査(係長級)	1. 医療チームの一員としての役割を理解し、実践できる 2. 自己目標を持ち根拠に基づいた治療を実践し、後輩に指導・助言ができる 3. キャリアアップの必要性を理解し自己検査できる 4. 学生に対し適切な指導・調整ができる	・係長級研修(豊中市職員研修)	・各学会及び研修会への参加と発表	
主事	1. 積極的に先輩に相談し、助言を受けながら、効果的・効率的なリハビリ業務の実践ができる 2. 新人や後輩、学生の指導・助言ができる 3. リハビリ実践の中から、課題を見出し、学習活動を展開できる 4. 公務員として接遇やマナー、人権尊重、個人情報保護などに関し、基本的な知識を持ち、後輩職員などの模範となる	・係長級昇格前研修豊中市職員研修)	・各学会及び研修会への参加と発表	
一般職員	1. 公務員としての自覚、責任を持ち、病院職員、医療チームの一員として基本的態度を身につける 2. 指導、助言を受けながら正確な知識・技術を身につけ、基本的なリハビリを安全に提供できる 3. 報告、連絡し、相談ができ、患者と良好なコミュニケーションを取ることができる		・各学会及び研修会への参加と発表	・各協会の新人教育プログラムの終了

階層にかかわらず受講する研修	・院内研修(医療安全管理研修、感染対策・抗菌薬適性使用研修、情報セキュリティ研修、接遇研修、救急蘇生研修、人権研修) ・がんのﾘﾊﾋﾞﾘﾔｰｼｮﾝ研修会
階層にかかわらず取得する資格	・専門療法士(脳卒中、運動器、循環器など) ・認定療法士(神経、運動器、内部障害など) ・心臓リハビリテーション指導士 ・各学会等の認定療法士(呼吸療法認定士、糖尿病療養指導士、心不全療養指導士など)

めざすべき職員像

公務員および医療社会福祉士として高い倫理観と人権意識をもち、心温かな信頼される医療の提供に寄与する職員

対人援助専門職に必要な知識とスキルの向上のため自己研鑽に励み、専門性の向上をめざす職員

相談者を全人的な存在として認識し、権利擁護の視点に基づき主体的な意思決定を支援できる職員

地域の中核病院の職員としての自覚をもち、地域住民および関係機関とともに地域共生社会の実現をめざす職員

人材育成計画

階層	到達目標	内部研修	外部研修	専門・認定等の資格取得など
ラダーⅤ 統括管理 (課長級相当)	・管理的立場でスーパービジョンを実施することができる。 ・部署内のあらゆるリスクマネジメントが行える。 ・経営的視点・政策的視点から部署を統括することができる。 ・組織目標を立案し、進捗管理をおこなう。 ・国をはじめ府、医療圏、豊中市等の動向を踏まえ組織目標を立案し、進捗管理を行う。	・新任課長級研修(豊中市職員研修) ・管理監督職員研修(豊中市職員研修)		・認定社会福祉士・医療分野(推奨)
ラダーⅣ 管理的SV (課長級相当)	・指導的立場でスーパービジョンを実施することができる。 ・データ分析にもとづく業務改善に取り組むことができる。 ・部署の目標を意識した業務マネジメントができる。 ・各種マニュアルを管理することができる。 ・トラブルに対し後輩と共に対応できる。 ・組織や地域の課題に対する解決策を提案することができる。 ・院外の講習会で講師を務めることができる。	・新任課長級研修(豊中市職員研修) ・新任係長級研修(豊中市職員研修) ・新任課長補佐級研修(豊中市職員研修)		・精神保健福祉士(推奨) ・認定医療ソーシャルワーカー(推奨)
ラダーⅢ 指導(困難ケースに対応) (主事・係長・課長補佐級相当)	・MSWの存在意義や倫理綱領を踏まえ後輩や実習生に適切な指導や助言ができる。 ・複合的な課題を抱えるケースにも対応できる。 ・不足する社会資源を課題として認識し解決策を検討できる。 ・他機関・多職種連携の中心となることができる。 ・倫理的ジレンマを明らかにし適切に対応することができる。 ・院内外の各種委員会・協議会の運営管理ができる。 ・院内の勉強会や講習会で講師を務めることができる。	・係長級昇格前研修(豊中市職員研修) ・新任係長級研修(豊中市職員研修) ・新任課長補佐級研修(豊中市職員研修)	・大阪医療ソーシャルワーカー中堅者研修(推奨) ・認定がん専門相談員の更新に必要な各種研修	・社会福祉士実習指導者 ・救急認定ソーシャルワーカー(推奨)
ラダーⅡ 自立(多様なケースに対応) (一般職員等)	・MSWの存在意義および倫理綱領を意識してSW実践が行える。 ・地域の社会資源について情報収集し適切に活用する。 ・適切にニーズ把握・課題のアセスメントを行い、支援を実践する。 ・SWに関連する診療報酬について理解する。 ・自ら院内外の他職種と連携することができる。 ・医療分野における倫理的ジレンマが理解できる。 ・医学や社会保障制度についての知識をニーズに合わせて活用する。 ・院内外の各種委員会・協議会に部署の代表として出席することができる。	・2～5年目職員研修(豊中市職員研修) ・新規採用職員研修(豊中市職員研修)	・医療ソーシャルワーカー初任者研修(大阪府医療ソーシャルワーカー協会等) ・がん相談支援センター相談基礎研修Ⅲ	・認定がん専門相談員(がん相談支援センター以外の所属職員は推奨)
ラダーⅠ 初任者	・指導のもとマニュアルや個人情報保護のルール、その他の規範を遵守して業務にあたることができる。 ・MSWと所属部署の役割を理解する。 ・対人援助職のコミュニケーションスキル(傾聴・共感・受容)を用い関係構築ができる。 ・自身の実践を振り返り、自ら課題を見いだすことができる。 ・既存の地域社会資源を知る。 ・院内外の他職種の役割について理解・把握する。 ・基本的な医学的知識・社会保障制度について理解・把握する。		・医療ソーシャルワーカー初任者研修(大阪府医療ソーシャルワーカー協会等) ・がん相談支援センター相談基礎研修Ⅰ・Ⅱ	
階層にかかわらず受講する研修	・医療安全管理研修 ・接遇研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・医療情報研修 ・豊中市社会福祉職員人材育成プラン研修 ・豊中市職員研修			

診療情報管理士

めざすべき職員像

診療情報の管理・点検とそれに関連した業務を専門的に行うことで、質の高い安全・安心の医療を提供することに寄与する職員

医師等が記録する診療情報が妥当で適切なものであったのかを検証・評価することで、医療の質と安全性の向上に繋げる職員

適切なDPCコーディングを行なうことで、データの質の担保、適正な診療報酬請求の実施に寄与する職員

人材育成計画

階層	到達目標	内部研修	外部研修	専門・認定等の資格取得など
22年目以上	・病院の目標達成に向けて、所属を超えた組織の活動を推進できる。 ・診療情報の精度管理と活用を通じ、病院全体の意思決定を補佐するなどの専門性を高めることができる。 ・管理職としての視点で、組織的に関連部門や地域との連携・調整・協働ができる。 ・キャリアアップの必要性を理解し、組織的に後輩の自己研鑽を支援できる。	・課長級研修(豊中市職員研修) ・院内職員研修(医療安全管理研修、個人情報保護、情報セキュリティなど) ・職場研修(係ミーティング、勉強会、OJTなど)	・日本病院会、診療情報管理学会、その他研究会等が主催する研修・研究会など(診療録管理、コーディングスキルアップ研修、診療統計、DPCコーディング・分析、全国がん登録、統計学研修など)	・診療情報管理士指導者 ・医療経士(1級・2級・3級) ・統計検定3級 ・医療情報技師 ・院内がん登録(初級・中級・指導者)
17～21年目	・管理職を補佐する視点で、組織的に関連部門や地域との連携・調整・協働ができる。 ・業務等における課題を発見し、業務改善ができる。	・課長補佐級研修(豊中市職員研修) ・院内職員研修(医療安全管理研修、個人情報保護、情報セキュリティなど) ・職場研修(係ミーティング、勉強会、OJTなど)	・日本病院会、診療情報管理学会、その他研究会等が主催する研修・研究会など(診療録管理、コーディングスキルアップ研修、診療統計、DPCコーディング・分析、全国がん登録、統計学研修など)	
11～16年目	・後輩等に組織目標や業務の目的について理解させ、その遂行を監督する。 ・メンバー内の調和を図る。 ・キャリアアップの必要性を理解し、後輩等の自己研鑽を支援できる。	・係長級研修【豊中市職員研修】 ・院内職員研修(医療安全管理研修、個人情報保護、情報セキュリティなど) ・職場研修(係ミーティング、勉強会、OJTなど)	・日本病院会、診療情報管理学会、その他研究会等が主催する研修・研究会など(診療録管理、コーディングスキルアップ研修、診療統計、DPCコーディング・分析、全国がん登録、統計学研修など)	
6～10年目	・組織目標、業務の目的、上司の命令等を正しく理解し、職務を正確に遂行できる。 ・院内の医師や他部門とのコミュニケーションを通じ、その業務プロセスを踏まえた診療情報・システムの管理運用を行える。 ・キャリアアップの必要性を理解し、自己研鑽ができる。	・係長級昇格研修(豊中市職員研修) ・院内職員研修(医療安全管理研修、個人情報保護、情報セキュリティなど) ・職場研修(係ミーティング、勉強会、OJTなど)	・日本病院会、診療情報管理学会、その他研究会等が主催する研修・研究会など(診療録管理、コーディングスキルアップ研修、診療統計、DPCコーディング・分析、全国がん登録、統計学研修など)	
2～5年目	・専門知識を活かし、根拠に基づいた適切な診療情報・システムの管理運用を行える。 ・後輩等に対し、適切な指導・調整ができる。	・院内職員研修(医療安全管理研修、個人情報保護、情報セキュリティなど) ・職場研修(係ミーティング、勉強会、OJTなど)	・日本病院会、診療情報管理学会、その他研究会等が主催する研修・研究会など(診療録管理、コーディングスキルアップ研修、診療統計、DPCコーディング・分析、全国がん登録、統計学研修など)	
新規採用職員	・公務員、病院職員としての自覚と責任が持てる。 ・当院の基本理念を理解し、病院職員として行動できる。 ・診療情報の管理や点検業務に必要な知識・技術を身につける。 ・院内の医師や他部門と良好なコミュニケーションをとることができる。	・院内職員研修(医療安全管理研修、個人情報保護、情報セキュリティなど) ・職場研修(係ミーティング、勉強会、OJTなど)	・日本病院会、診療情報管理学会、その他研究会等が主催する研修・研究会など(診療録管理、コーディングスキルアップ研修、診療統計、DPCコーディング・分析、全国がん登録、統計学研修など)	

めざすべき職員像

「患者視点」「前向きな姿勢」「チームプレー」で質の高い患者サービスをめざす職員

上記の達成にむけて、職務を通じた実践、実行を継続することをめざす職員

患者さんの立場に立った心温かな職員

病院職員の一員として教育・研修の充実に積極的に取り組む職員

人材育成計画

階層	到達目標	内部研修	外部研修	専門・認定等の資格取得など
5年以上	病院に関する基礎知識の習得に努め、医療安全・感染症・個人情報の取扱ができる。MA業務を把握し、他部門との話し合いなどができる。	・院内全員必須研修(医療安全管理研修、感染対策・抗菌薬適正使用講習会、情報セキュリティ他) ・MA室院内研修 ・BLS研修	・他病院の視察	
1年～4年	MA業務を理解しMAの指導ができる。適切な患者対応とMA室内での意思疎通ができる。	・院内全員必須研修(医療安全管理研修、感染対策・抗菌薬適正使用講習会、情報セキュリティ他) ・MA室院内研修 ・BLS研修	・他病院の視察	
新規採用職員 (～1年)	各診療場の特殊性を理解して診療場を1人で受け持つことができる。受診患者様の診療内容が理解でき、受診終了までの状況把握ができる。	・院内全員必須研修(医療安全管理研修、感染対策・抗菌薬適正使用講習会、情報セキュリティ他) ・MA室院内研修 ・BLS研修	・保健所研修	・医師事務作業補助技能審査試験 ・医師事務作業補助技能認定試験 ・医師事務作業補助業務実務能力認定試験
新規採用職員 (～6ヶ月)	外来基本カードの処理が充分でき、各部署からの問い合わせ対応に対して明瞭、簡潔にでき、担当する診療科の外来業務を1人ですることができる。	・院内全員必須研修(医療安全管理研修、感染対策・抗菌薬適正使用講習会、情報セキュリティ研修他) ・MA室院内研修 ・BLS研修		・医師事務作業補助技能審査試験 ・医師事務作業補助技能認定試験 ・医師事務作業補助業務実務能力認定試験

めざすべき職員像

- ・医療における専門的な心理支援の技術を身に着けるため、常に、自己研鑽と学ぶ姿勢の維持に努める職員（生涯研修）
- ・多職種からなるチーム医療において、あらゆるスタッフと常に良好なコミュニケーションをとることを心掛け、いつでも相談に応じられるよう準備する職員
- ・患者、家族のみならずスタッフ全てに対して、必要な心理支援を適切なタイミングで提供できることをめざし、倫理観や人権尊重の視点を忘れない職員
- ・ライフワークバランスを通じ、常に、自らの心身の安定を保つことを目指す職員

人材育成計画

	新卒	既卒	到達目標	内部研修	外部研修	専門・認定等の資格取得など
上級：指導レベル	卒後 20年	豊富な 病院臨床 経験	基本的態度・姿勢 ・チーム医療の中で心理支援の推進、提案を行うことができる 専門支援 ・医療場面での心理支援の判断について、指導・助言ができる ・組織に対して必要な周知や啓発を行う 知識・技法 ・心理支援の実践に対して、具体的に指導・助言ができる。また、新しい知見に対して情報収集し周知に努める。	メンタルヘルス研修会などで講義を担当する	・学会や研究会での中心的役割 【研修会】 ・実習指導研修 ・JPOS：心理職修了者コース	【学会での上位資格取得】 JACE：上級臨床倫理認定士 JAGP：認定スーパーバイザーなど
中級：中堅後期	卒後 10年 以上	医療での 臨床経験 5～10年 以上	基本的態度・姿勢 ・チーム医療の一員としてリーダーシップをもって支援に参加できる 専門支援 ・医療における、心理支援の適切な計画を立て、多職種への積極的な働きかけ（コンサルテーションに応じたり、カンファレンスの中心的な役割）ができる 知識・技法 ・面接やテストバッテリーなどを工夫して実践し、結果を本人や家族、支援チームにわかりやすく説明できる グループ療法などの主体的運営	メンタルヘルス研修会などで講義を担当する	・学会や研究会に積極的に参加し発表する機会をもつ 【研修会】 ・実習指導研修 ・JPOS：心理職アドバンスコースⅡ	【学会での上位資格取得】 JACE：臨床倫理認定士 JAGP：グループサイコセラピスト JPS：上級専門心理士など
中級：中堅前期	卒後3～ 10年	医療での 臨床経験 3～5年	基本的態度・姿勢 ・チーム医療の一員として支援に参加できる 専門支援 ・医療場面での状況に応じ、柔軟な心理支援の選択・判断ができ、多職種とのスムーズな連携ができる 知識・技法 ・本人の状況に合わせた適切な面接やテストバッテリーなどの実践ができる ・グループ療法などを多角的に活用できる	幅広く関連する研修会に参加	・学会や研究会に積極的に参加し発表する機会をもつ 【研修会】JPOS：心理職アドバンスコースⅠ	【学会での資格取得】 JAGP：キャンディテイトJPS：専門心理士 JSRP：がん・生殖医療専門心理士など
初級：初学者	卒後1～ 2年目	医療での 臨床経験 1,2年目	基本的態度・姿勢 ・チーム医療の一員として支援に参加できる 専門支援 ・医療における、必要な心理支援の判断ができる 知識・技法 ・指導を受けながら心理アセスメントや所見作成、面接の実施ができる	幅広く関連する研修会に参加	・学会や研究会に所属 【研修会】 JPOS：心理職スタンダードコース	【学会での資格取得】 JAGP：キャンディテイトJPS：専門心理士など

階層にかかわらず
受講する研修

臨床心理士資格更新(5年ごとに15単位)のための学会や研修会

めざすべき職員像

患者に真摯に向き合い、人権を尊重し心温かな対応ができる職員

常に周囲に気を配り、安全な医療提供ができる職員

多職種と情報共有し、他部門との連携を円滑にとることができる職員

質の高い医療を提供するため向上心を持ち自己啓発に努める職員

人材育成計画

階層	到達目標	内部研修	外部研修	専門・認定等の資格取得など
部長(課長級)	・組織目標を明示し円滑な業務運営ができるよう調整することができる ・計画的な人材育成を行うとともに部下のキャリアアップを積極的に支援できる ・経営的な視点に立ち、経営改善が立てられる ・仕事の結果や所属職員のミス、トラブルにも責任を持って対応する	・新任課長補佐級研修(豊中市職員研修) ・新任課長補佐研修(豊中市職員研修)		・日本口腔ケア学会認定1級
副部長(補佐級)	・組織目標を理解し円滑な業務運営ができるよう調整することができる ・新たなトラブルや業務を取り巻く変化を認識し対策を迅速かつ的確に講ずることができる ・部長を補佐し所属職員のミス、トラブルにも責任を持って対応する			・日本口腔ケア学会認定2級
主任(補佐級)	・組織目標を理解し円滑な業務運営ができるよう調整することができる ・対応が難しい苦情や要望についても、毅然と適切に対応できる ・コスト意識をもって効率的な業務の推進に取り組む			
主任(係長級)	・他部署と情報共有し業務をスムーズに実施することができる ・担当業務について、新しい考えで業務改善や実現可能な企画を提案する ・所属職員の適性や能力を把握し能力開発、育成を行うことができる	・新任係長研修(豊中市職員研修)		・日本口腔ケア学会認定3級
主査(係長級)	・職場の人間関係や職場環境の向上に努める ・担当業務について、新しい考えで業務改善や実現可能な企画を提案する ・所属職員のミス、トラブルにも責任をもって対応する ・苦情や要望について相手が納得できるよう毅然と適切に対応できる	・新任係長級研修(豊中市職員研修)		・日本歯科衛生士会 ・医科歯科連携・口腔機能管理認定歯科衛生士
主事	・歯科の問題点を見つけ改善策を提案できる ・新人や後輩に適切な指導アドバイスができる ・歯科の目標に沿った行動がとれる	・係長級、技能長昇格前研修		・日本歯科衛生士会 ・歯科医療安全管理認定歯科衛生士
一般職員	・豊中市職員としての自覚を持ち、病院の基本理念を理解し、社会人・医療人としての行動がとれる ・院内におけるコミュニケーションが適切に取れる ・病院全体の業務の流れが理解できる	・2～5年目研修(豊中市職員研修) ・新規採用研修(豊中市職員研修)		・日本口腔ケア学会認定4級、5級
階層にかかわらず受講する研修	・医療安全管理研修 ・情報セキュリティ研修 ・救命処置講習会 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・日本歯科衛生士会開催の研修、学会への参加 ・日本口腔ケア学会開催の研修、学会への参加			

視能訓練士

めざすべき職員像

専門技術職として市民の眼の健康を守り、眼科診療に貢献できる職員

組織の一員である自覚を持ち、職種隔たりなくフォローができる職員

思いやりと、優しさの心をもって患者に接することのできる職員

病院の理念、方針を理解し、科内の運営に活かすことのできる職員

人材育成計画

階層	到達目標	内部研修	外部研修	専門・認定等の資格取得など
部長 主任	・眼科部長、医師と協力し、医療の質、安全性、経営、労務などの運営管理ができる ・リーダーとフォロー関係を理解し、意見交換しやすい職場環境を築くことができる ・部下の自己研鑽やキャリア形成を支援できる ・科内目標を立案し、意識の共有と、浸透を示すことができる	・マネージメント研修 ・コンプライアンス研修 ・人事評価研修 ・医療安全管理研修 ・労働研修 ・ハラスメント研修 ・情報セキュリティ研修 ・医療倫理 ・保険診療講習会	・日本視能訓練士協会専門課程 ・日本眼科学会主催の関連学会 ・臨地実習指導者講習会	・認定視能訓練士 ・臨地実習指導者認定
主査(係長級)	・専門的な知識・技術を習得し、模範となる ・患者の診療内容、時間、導線を管理し、チーム内で連携ができる ・部下の目標に沿った指導、助言ができる ・WGや委員会など、関連部門と協同することができる ・予算、整備、保守に応じた適性な機器管理、物品管理ができる ・医師・上司の補佐や、部下・他職員のフォローができる	・係長級研修(豊中市職員研修) ・部下指導研修 ・医療安全管理研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・情報セキュリティ研修 ・医療倫理 ・保険診療講習会	・日本視能訓練士協会基礎教育、専門課程 ・日本眼科学会主催の関連学会 ・臨地実習指導者講習会	・認定視能訓練士 ・臨地実習指導者認定
主事	・病態、検査結果の評価やアセスメントができ、患者さんに沿った対応ができる ・科内目標を理解し、提案や改善ができる ・業務を円滑に進めるため、コミュニケーションとりチームで取り組むことができる ・主体的に実習生の指導ができる	・係長級昇格前研修(豊中市職員研修) ・医療安全管理研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・情報セキュリティ研修 ・医療倫理 ・保険診療講習会	・日本視能訓練士協会基礎教育 ・日本眼科学会主催の関連学会 ・臨地実習指導者講習会	・臨地実習指導者認定
一般職員	・市職員としての自覚をもち、規律や科内のルールを遵守することができる ・眼科検査の指示を理解し、視機能検査の特技を習得できる ・技術や業務を振り返り、助言や指導のもと自己学習に取り組むことができる ・新卒・新入職の模範となる行動ができる	・医療安全管理研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会 ・情報セキュリティ研修 ・医療倫理 ・保険診療講習会	・日本視能訓練士協会新人教育、技術講習 ・日本眼科学会主催の関連学会	
新規採用職員	・市職員としての自覚をもち、規律や科内のルールを遵守することができる ・助言をもとに、病院、眼科診療の使命、チーム内の役割を理解することができる ・基礎的な知識、技術を臨床に活かすことができる ・患者さんの立場に立った、温かい対応ができる ・医師、上司の助言や支援に対し、社会人としての受け答えができる	・新入職オリエンテーション ・接遇研修会 ・医療安全管理研修 ・感染対策・抗菌薬適正使用講習会	・日本視能訓練士協会新人教育、技術講習 ・日本眼科学会主催の関連学会	

めざすべき職員像
職種間・所属間で連携・協力し、互いを尊重して組織目標の達成に取り組める職員
市民のニーズや地域の課題に向き合い、病院の役割を意識した行動・思考ができる職員
病院経営の視点を持ち、効率的な病院運営に向けて積極的な改善改革に取り組める職員
病院職員として必要な知識の取得に努め、組織力や職場力の向上に貢献できる職員

人材育成計画				
階層	到達目標	内部研修	外部研修	専門・認定等の資格取得など
局長級	経営責任を担う幹部職員／部の統括責任者or部局をまたがる特命課題の推進者 ・ 総合的・中長期的・全市的な視野で政策の決定を行い、病院運営計画等の目標達成に向けて、効率的・効果的な業務運営の実行責任を負う。 ・ 医療関係機関を中心に院外関係機関と信頼関係を構築し、院内各部との連携を図りながら、効率的・効果的に業務を運営する。 ・ 院内の事務系職員の人材育成、組織の活性化について、方向性を決定する。 ・ 病院経営に必要な知識・能力の向上に努める。 ・ 病院の経営責任を担う幹部職員として強い責任感と意欲を持ち、当院の地域医療における責務を果たす組織を作る。			
次長級	部の副統括者／部局内各課の指導者or部局の特命課題の推進者 ・ 中長期的・全市的な視野で政策の決定を行い、病院運営計画等の目標達成に向けて、明確かつ適正な判断基準を持って、施策・事業の方向性を示す。 ・ 部局長を補佐し、部のミッションを効率的・効果的に果たせるよう、部局内各課の調整を行う。 ・ 病院経営に必要な知識・能力の向上に努める。			
課長級(主幹)	課の統括者／課の特命業務の推進者 ・ 全庁的な視点で、関連業務の課題等を把握し、対応策を決定する。 ・ 病院経営の視点を持ち、病院運営計画等に沿った組織目標を作成し、目標達成に導く。 ・ 院内の他職種、他部署や関係機関と信頼関係を築き、円滑な業務運営を行う。 ・ リスクマネジメントしながら積極的に新たな企画・提案を行い、市民サービスを向上させる。 ・ 病院に関するさまざまな知識の習得に努める。	・ 新任課長級研修(豊中市職員研修) ・ 新任課長研修(豊中市職員研修) ・ 院内診療報酬研修	・ 日本病院会「病院経営管理士通信教育」	・ 病院経営管理士 ・ 医療経営士(1級)
補佐級(副主幹)	課の副統括者or課内各係の指導者／課内業務のスペシャリスト ・ 関連業務の課題等を把握し、困難性の高い業務に臨機応変に対応する。 ・ 課長を補佐し、人材・予算の調整、組織目標や業務の進行管理を行う。 ・ 医療を取り巻く社会の変化を意識し、リスクマネジメントしながら最善の方法を選択する。 ・ 病院に関する基礎的な知識の習得に努める。	・ 新任課長補佐級研修(豊中市職員研修) ・ 新任課長補佐研修(豊中市職員研修) ・ 院内診療報酬研修	・ 日本病院会「病院経営管理士通信教育」	・ 病院経営管理士 ・ 医療経営士(1級)
係長級(主査)	係の統括者or統括補佐／係内業務のスペシャリスト ・ 関連業務の基礎的な知識を有し、困難性の高い業務に対応する。 ・ 関係機関との調整や職場の人間関係、職場環境の向上を意識する。 ・ コスト意識を持って、業務改善や実現性のある企画を提案し、効率的な業務運営を推進する。 ・ 病院に関する基礎的な知識の習得に努める。	・ 新任係長級研修(マネジメント初級)(豊中市職員研修) ・ 新任係長研修(豊中市職員研修) ・ 院内診療報酬研修	・ 公益財団法人日本医療機能評価機構「医療対話推進者養成セミナー」	・ 施設基準管理士 ・ 医療コーディネーター ・ 医療経営士(2級)
主事級	係内業務の中心推進者 ・ 中堅職員として応用力の習得をめざす。 ・ 職場の役割や目標、めざす成果を認識し、自らも目標を持つ。 ・ 周りの職員と十分なコミュニケーションを取り、上司と後輩職員の橋渡しの役割を果たす。 ・ 業務改善や企画提案を積極的に行う。 ・ 病院に関する基礎的な知識の習得に努める。	・ 係長級・技能長昇格前研修(豊中市職員研修)	・ 日本施設基準管理士協会「施設基準管理士養成eラーニング講習」 ・ 日本病院会「DPCコース」	・ 施設基準管理士 ・ 医療経営士(3級) ・ 診療情報管理士 ・ 診療情報技師 ・ 診療報酬請求事務能力認定試験
一般職員	担当業務の推進者 ・ 市職員としての基礎力の習得をめざす。 ・ 担当業務に必要な知識や技術、技能を持ち、有効に活用できる。 ・ 主体的に業務に取り組み、職場で信頼関係を築く。 ・ 課題に対し、熱意を持ち、粘り強く取り組み、積極的に職務能力向上を図る。 ・ 病院に関する基礎的な知識の習得に努める。	・ 新規採用研修(豊中市職員研修) ・ 2年目職員研修(豊中市職員研修) ・ 3年目職員研修(豊中市職員研修) ・ 5年目職員研修(豊中市職員研修)	・ 全国自治体病院協議会「診療報酬改定セミナー」	・ 診療情報管理士 ・ 診療情報技師 ・ 診療報酬請求事務能力認定試験
階層にかかわらず受講する研修	(院内研修) ・ 医療安全管理研修 ・ 感染対策・抗菌薬適正使用講習会) ・ 個人情報保護、情報セキュリティ研修 ・ 接遇研修			